

寺井病院グループだより

寺井病院 地域連携室発行 923-1121能美市寺井町ウ84
 TEL 0761-58-5500 FAX 0761-58-6015
<http://terai-hospital.jp/>



病院長 島 隆雄

新年を迎えて

2023年は当院で透析治療を開始して20年、療養病床への転換20年の節目の年になります。20年前には想像もできなかった世の中の流れや変化の中で、地域の方々に支えられてきたことに感謝しつつ、求められる慢性期治療に責任を持って医療活動や介護サービスの提供をこれからも続けていくことに働きがいを感じています。

私たちのめざすもの

患者・利用者に寄りそい、患者・利用者とともに困難に立ち向かいます。

専門性を高め地域に信頼される質の高い医療・介護を実践します。

手取の里通所リハビリテーションの紹介

私たち通所リハビリは、要介護認定を受けたご利用者が、可能な限り住み慣れた場所で生活できるように、一人一人の生活や個々の持っている能力を把握しながらリハビリテーションを提供しています。

身体機能の向上にむけて必要な運動を行うだけでなく、自宅環境に合わせた日常生活動作や日常生活関連動作(家事や外出、趣味活動等)が行えるように練習したり、ご利用者の興味関心を評価しながらやりたい事や出来るようになりたい事に取り組めるような関わりを大切にしています。

手取の里では、中庭を活用した畑作業にも取り組んでいます。実際に畑を耕したり苗を植えたり、手入れの方法や収穫についての指導役をしていただいたり、昔とった杵を生かした活動でみなさんの生き生きした表情を引き出すことができています。

新型コロナウイルス感染症により、以前に比べてまだまだ制限が多い状況ではありますが、皆様が笑顔で過ごせるように職員一同頑張っていますのでよろしくお願いいたします。



自治体キャラバンに参加して



自治体キャラバンとは各市町に対し、医療・福祉・介護など社会保障の充実と国や県に意見書の提出を求めて要請する行動です。毎年の行動で、寺井病院グループでは小松市、能美市、川北町に参加しています。

今年は小松市の国民健康保険の前進がありました。

これまで、小松市は国保滞納者に対して限度額認定証は交付されませんでしたが、保険料の分納相談に応じるなどの条件で交付されることになりました。

患者さんの中に、短期資格証の方で限度額認定証所持されている方に出会い、前進を実感しています。

葬儀代が払えない・・・

「葬儀代のこと、困っている人がいる」と病棟看護師から相談依頼が入りました。

Aさん(80代)は夫と二人暮らしで自宅療養中に病状が悪化し緊急入院となったのですが、入院後すぐに亡くられました。

Aさん夫婦は経済的な理由で、本来必要な介護サービスの利用を躊躇するほど切り詰めた生活を強いられ、葬儀代など貯めておく余裕がありませんでした。葬儀費用が用意できないという事態に直面し、夫はどうすればいいのかわからず途方に暮れていました。

私はあわてて利用できる制度がないか調べたのですが見つからず、夫もお金を工面してもらおうと親戚・知人に電話をかけてみましたがだめでした。結局、葬儀会社と相談し、通夜式や告別式を行わずに火葬だけの葬儀形態をとり、支払いは少しずつ支払うことになりました。

貯金が出来ず葬儀代を心配しているのは、Aさんに限ったことではありません。苦しい生活費の中から高額な生命保険をかけて万一に備えている方もいらっしゃいます。

今後は、医療費や介護費の自己負担増に加え、物価高騰などで高齢者の生活状況は益々厳しさを増すことが予想されます。誰もが安心して最後を迎えられるように、尽力する構えていますが、こうした方の支援には悩みが増します。

医療ソーシャルワーカー 新 栄治



<医療ソーシャルワーカーにお気軽にご相談ください！>

当院では経済的な理由で医療にかかる機会が奪われないように無料又は低額で診療を受けることできる無料低額診療事業を行っています。対象は非課税世帯であるなど医療費の支払い困難な低所得者です。詳細は当病院医療ソーシャルワーカーにご相談下さい。

石川民医連全職員研修会

毎年、石川民医連に属する事業所で、経営から社会保障と幅広いテーマで合同研修会を行っています。

昨年12月11日(日)に「戦争か平和か 世界で日本で厳しく問われる現実の中、命の輝きを見つめなおし、わたしたちの力で、9条改憲を許さないおおきな運動のうねりを創りだそう」をテーマに掲げ、講演会と分散会の構成で開催されました。

講演会は弁護士の方から憲法寺井病院グループからはコロナに関連した倫理的課題、手取の里のクラスターのまとめ、ホームレスの居住支援について3演題を報告しました。

コロナ禍に加えて、物価高騰、ロシアのウクライナ振興に連動した防衛費や戦争政策の問題など、変化する社会情勢に、命と人権が脅かされつつあります。

情勢を知り行動を起こしていくことが重要だと学びました。



保健教室の紹介

手取の里の地域貢献活動として保健教室を企画し、今年度は「フレイル予防と認知症」をテーマに病気全般、栄養、運動、口腔についてと月1回の4回シリーズとして実行に移しました。

天気やコロナ感染症の影響で予定変更もありましたが1月で3回目終了しました。

参加枠は20名までで、出入りがあって実人数で合計20人の方が参加されました。

熱心に講師の話に耳を傾けられて、活発な質問や自身の健康の取り組みを披露されたりとぎやかな会になっています。

認知症やフレイルは年が増すごとに課題となってきます。いかに楽しく予防していくかを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

